

キャラクターソングの源流

1963-1986年放映のTVアニメ内でキャラクター役声優が歌う楽曲に着目して

伊原隼人（私的音楽同好会）

アニメや漫画などに登場するキャラクターが歌うキャラクターソングの様式は、いつ頃始まったのだろうか。キャラクターソング（以下、キャラソン）の特徴として、キャラクターが歌っていることなどが挙げられているものの、キャラソンという様式が始まった時期について結論は出ていない（1）。このような状況において、キャラクターソングの起源として一般的に認知されているのはキャラクター名義で歌った事例であり、1986年から放映された『めぞん一刻』に登場する音無響子（島本須美）《予感》が最初の事例であるという説が普及している（2）。

このように歌唱のクレジットにおけるキャラクター名義に着目する背景には、キャラクターが歌っていることの明確な根拠になりうることが考えられるが、それ以外のキャラソンの特徴は考慮されていない。例えば、キャラソンにはキャラクターの内面を焦点化するという特徴があることが指摘されているが（3）、この特徴は音無響子（島本須美）《予感》の時点で既に確認することができ、「Ah・・・あなたはまだ こんな気持ちわかってないでしょう」という歌詞などから内面の吐露を確認することができる。そのため、キャラクターが歌っていること以外のキャラソンの特徴は、キャラクター名義で歌う前から始まっている可能性が高いと考えるべきであろう。

そこで本報告では、日本でTVアニメが始まった1963年から音無響子（島本須美）《予感》が登場する1986年において、TVアニメの中でキャラクター役の声優が歌っている楽曲を対象に分析を行うことで、キャラソンが持つ特徴がいつから始まっていたのかを明らかにする。加えて、キャラクター役の声優が歌っている楽曲から周辺の音楽ジャンルとの関係性を明らかにし、キャラソンとの共通の特徴を整理することで、それらの音楽ジャンルがキャラクターソングに与えていた影響を指摘する。これにより、キャラクターソングという様式の源流を明らかにすることを本報告の目的とする。

分析結果からは、「キャラクターらしく歌う」、「内面の吐露」、「一人で歌う」、「歌うキャラクターの属性が限定されない」、というキャラクターソングの各特徴は徐々に形成されていったことが明らかになった。加えて、キャラ役歌唱声優が歌う楽曲が多かった1963-69年と1979-83年には、それぞれ童謡とニューミュージックという周辺の音楽からの影響が見られ、童謡からは「キャラクターらしく歌う」という特徴に、ニューミュージックからは「内面の吐露」という特徴に対して影響を与えられていることが明らかになった。

※参考文献

（1）田中尚道、澄川龍一、大用尚宏（2015）「キャラソングオヴァーデイス」『リスアニ！』22

（2）、p.95

（2）澄川龍一（2012）「HISTORY OF CHARACTER SONG」『リスアニ！』10(1)、p.104

【 JASPM37セッションB-1 】

(3) 広瀬正浩「千石撫子はどこで歌うのか——『化物語』を例に考える、物語とキャラクターソングとの関係」『ライトノベル・フロントライン』3、pp. 86-93